

[COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>
 E-mail:comm.tko@nskk.org
 PHONE:03-3433-0987
 FAX:03-3433-8678
 Diocese Office



第62号

(通巻1297号)

2022年10月23日

編集：広報委員会

委員長：渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18

2022ランベス会議に参加して

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸

7月27日(水)から12日間、世界165ヶ国から主教650人程、配偶者480人程、スタッフ、ボランティアを加えてのランベス会議が、カンタベリー大聖堂、主会場となりました。これまで写真で見ただけでしたが、異なる文化的背景をもつ主教が増えたこと、女性の主教が増えたことに驚きと感動をも覚えました。

会議に先立ち1年前からZoomで海外の主教がたとの準備が進められ、今回の会議の中心聖書箇所であるペテロの手紙Iを基にしての分かち合いがなされてきました。また、「Call」という言葉が頻繁に使われてきましたが、これは数々の決議をし、それを全聖公会に強制するというものではなく、会議での「Call(呼び掛け)」を異なる言語や文化、歴史を持ち、大切にしてきた各々の聖公会へ持ち帰

り、活かしていくことに重きが置かれました。併せて「神とともに」「相互に学び合い」「異なる状況を生きていることを聴き合う」というキーワードが繰り返されました。

多項目に及ぶ「Call」全てを記すことは紙面の関係でできませんが、その中「Discipleship」というテーマがあります。日頃、私たちは「自分はクリスチャンである」「誰さんはキリスト教信者である」という言い方をごく普通にし、もちろん間違いはありませんが、改めて「イエス様によって私たちはイエス様の弟子(イエス様に従い、応えていく者たち)」とされている」という、即ちイエス様を遥か彼方に見てではな



く、当初の弟子たち同様、イエス様と共に歩む一人一人としてのお召しという恵みを授けられているという感謝と畏怖の思いを新たにさせられました。

また、7人ほどの小グループに分かれての毎日の聖書の分かち合いが殊更印象に残っています。私のグループは日本、アメリカ、イギリス、インド、オーストラリアの主教がたでしたが、顔を合わせて話し合い、分かち合えたことで、違いを持ちつつもイエス・キリストを中心としたあたかもファミリーであるかとの思いを強く感じさせられました。そこで日々のキーワードの一つに「希望」「苦しみ」がありました。希望とは私(たち)の願う希望と神様から私(たち)への希望があり、前

者にはともすれば神様抜きでもあり得る落とし穴があることに気付かされました。また、「苦しみ」というものを思う時、避けては通れない「私(たち)」の苦しみも勿論ですが、イエス様に苦しみを負わせているのは「誰?」「何?」という視点も置き去りにできないこと、そしてそれは私たちの身の回りで起こっている出来事や、自らの未熟さ、自己中心性などとも無縁ではないことを分かち合いました。ジャスティン・ウエルビー大主教の「私たちは忙しい時、心が乱れている時、神様を横に置きがちになるが、神様の飢え、渇きに気付くことの大切さがある」との言葉と重なりもしました。

最後に、「各々違いはあるが、共に歩き、聴き合い、証をしていくその出発点は人間の尊厳への思いであること」、また「教会のいのちは宣教であり、イエス様の福音を分かち合うことである」との心に刺さった言葉をもって終わります。

シリーズ 北関東の教会 ③
どうぞ、おいでください

榛名聖公会

（熱い器の教会）

中島 博

榛名聖公会は、社会福祉法人新生会という老人ホーム群の一角に位置し、また榛名荘病院の入り口に続く場所に立っています。創立以来、参列者は老人ホームの入居者が多いということは言うまでもありません。カトリックの人や教団で育った人、様々な人が集まっています。

現在は、「アメリカ聖公会の本日の特祷」を説教の始めの部分に挿入されることを得意とされる興石勇退職司祭を中心に、長い年月を新生会に身を置かれる個性豊かな鈴木育三退職執事、誰にでも愛される大山洋平執事が教会を守ってくださっています。

参列者は、50人から60人規模の教会で、若い人たちも少ないながら、育っています。しかし、高齢者が多いことも良いことがあります。お一人お一人は長く母教会の役員もなさった方が多く、皆さんそれぞれの信仰の深さを



垣間見ることがしばしばあります。90歳を超えたある女性は、長年、障碍を持った成人の施設をなさってきました。途中で、ご主人を交通事故で亡くされ、経営の責任を一手に引き受け、次の世代に引き継いでこられました。その方の語る言葉は、いつもただ一言です。：「すべては神のみ心のままに」：どれだけ多くの方が、この言葉に励まされ、癒されてきたことでしょう。

またこの教会の司祭、執事の大きな仕事として、老人ホーム内で寝たきりになっていく人、入院をしている人、それぞれを訪問し、お一人お一人の枕もとで「祈る」という大きな仕事を通して、目に見えない教会を形成されているのです。実際に、榛名聖公会は、熱い器の教会です。

草津聖バルナバ教会 司祭 松浦 信

草津聖バルナバ教会は、群馬県北西に位置する温泉で有名な草津町にあります。百年余り前、草津の湯之沢と言われる集落にハンセン病の患者が住み着きましたが、英国SPGの宣教師コ

ンウォール・リーが教会と学校、住まいのホーム、幼稚園、医院を設置しこれら病気の方々のために、み言葉と人生に仕えました。集落の



に「キリスト教会」であると言われていました。実際に色々な教派の方々が訪れておりましたし、北村先生のお考えでフィリピンや日系ブラジル人のための礼拝もかつて行っていました。もう一つは観光としての特徴です。夏場は、特に観光客が多く訪れ、その時の常連の方もいらつしやいます。人数が少ないですけども、お見守りをお願いいたします。

聖慰主教会 司祭 松浦 信

英国SPGの宣教師コンウォール・リーによる草津湯之沢での働き（聖バルナバ・ミッシン）がありました。昭和7年より少しづつ草津のハンセン病療養所である国立療養所栗生楽泉園に信徒が移り住み、町中にある草津聖バルナバ教会の教役者は楽泉園内の信徒の牧会も行っていました。湯之沢が解散する前々年に米国聖公会GFSが海外からの献金を得て「聖慰主教会」が園内に設置されました。

戦争中は多くの信徒が強制労働や栄養不足のため逝去されました。戦後は、松村栄司祭のご努力もあり爆発的に信徒が増え、楽泉園の入所者当時は千人ほどでしたがその内3百名程が、聖慰主教会の信徒でありました。

信徒の中では、入所者自治会長や

入所者の中でもリーダー的な人も輩出しました。また、家庭集会などが盛んであり、松村司祭やその後の北村司祭はほぼ毎日のように楽泉園の中に出かけました。病者でかつ聖職者として働いた、太田國男執事と坂本伊作執事が下支えを行いました。



筆者であるわたし松浦も20年前に赴任しましたが、その頃48名いた信徒が現在は、10名（入園者は8名）となりました。平均年齢も90歳です。今生きて来た証しをどのように残していくのかについて、真剣に考えております。どうぞ、ご加ってください。

熊谷聖パウロ教会

管理牧師 司祭 鈴木 伸明

JR熊谷駅から徒歩約15分、閑静な住宅街を歩いていきますと、熊谷聖パウロ教会が見えてきます。閑静な住宅街というものの、近隣に税務署や裁

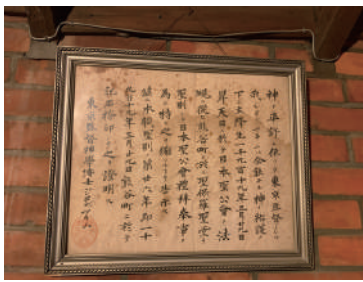
判所があつて、道路が狭い割には人通りも多く、当教会は長きにわたり、熊谷の人々に親しまれてきました。

礼拝堂は、渋沢栄一が創立した日本煉瓦製の煉瓦を用いて1919年に建設され、本年度103年を迎えました。煉瓦はイギリス積みと呼ばれる方法で積み上げられています。103年間、関東大震災、第二次世界大戦、東日本大震災など、幾多の危機を乗り越え、ほぼ原形のまま存在しています。特に第二次世界大戦では、8月15日未明、熊谷は空襲を受け、国道17号線以南は壊滅状態となりました。当教会は国道の北側に位置しておりますため難は逃れましたが、敗戦が公表された同じ日未明の空襲ということで、熊谷市民の無念は時代を超えて語り伝えられています。

礼拝堂内
部は、ノアの箱舟の船内を基本理念として設計されているとされており、これは池袋の立教学院諸



聖徒礼拝堂
当教会と基本設計図が同一の川越基督教會礼拝堂もノアの箱舟の船内が基本になっています。重厚な礼拝堂であるためか、今日まで多くの映画やテレビドラマのロケ地として使われてもいます。



今春より当教会は定住者不在となり、不安を持ちつつ信仰生活を続けています。熊谷は東京からも来やすいところですが、是非当教会へお立ち寄りください。皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

浦和諸聖徒教会 司祭 斎藤 徹

中山道浦和宿の跡地であったことから、浦和の駅から徒歩約5分のところに、浦和諸聖徒教会は麗和幼稚園と並んで建っています。1899年、東京飯田諸聖徒教会講義所としての始まりをもつ教会であることから、浦和諸聖徒教会と名付けられました。現在の礼拝堂は、J・M・ガーディナーの弟子上林敬吉が設計し、旧浦和市初の鉄筋

礼拝堂聖別の証

コンクリート建造物（1928年築）で、歩けば軋む床、傷みがある壁、長年働いてきたリードオルガン、だるまストープの煙突跡など、そのすべてに94年間ささげられてきた祈りの足跡を感じます。

当教会は、アプタン宣教師が始められた麗和幼稚園が隣接していることもあり、週日は園庭に子どもたちの声が響きます（和暦が令和と発表された後、取材陣もおとずれたとか）。「教会学校」生徒の多くが幼稚園卒業生で、コロナ禍前までは、教会と教会学校、幼稚園の子どもと大人が一緒に賑わう機会などもありました。

時代とともに変容はありますが、100年以上前にA・ロイド司祭によつてまかれた伝道の種は、歴代の先達によつて根を張り、幾世代にもわたる信仰の実を結び、現在まで受け継がれているのです。宿場町跡であることから史跡も多





く、また名物であるうなぎの名店やJリーグ浦和レッズの熱狂的ファンが集うお店も多数あります。駅前ロータリーには、やなせたかしさんデザインの「浦和うなこちゃん」(うなぎのキャラクター)の石像もあり、見どころたくさん。ぜひ一度、お運びください！

大宮聖愛教会 石森 眞子

大宮聖愛教会は新幹線も停車するJR大宮駅(東武、埼玉新都市交通も乗り入れる)の西口徒歩3分のところにあり鉄道博物館も徒歩圏内です。宣教の歴史は1899(明治32)年アーサー・ロイド師、竹島廉平師によって開始され、



1934(昭和9)年に現地に聖堂が与えられるまで駅周辺を12ヶ所移転してきました。現聖堂は上林敬吉設計、大宮で最初の鉄筋コンクリートの建物として建築され、ジョン・マキム主教により10月20日に聖別、今年88周年を迎えます。コロナ禍にあつて公祷が休止されても牧師は私祷を捧げ、礼拝を守り続けました。

隣地に聖愛幼稚園があります。当初は聖堂が平日の保育の場となっており、今でも聖堂の玄関に「聖愛幼稚園」「大宮聖愛教会」と二つの表札があるゆえんです。後に隣地に専用の園舎が建てられ

ました。時代の要請から建て替え、認定こども園へと組織が変わりましたが、一人一人を大切に育てる保育の心は受け継がれています。卒園生が日曜学校へつ



ながり、保護者から信徒となられた方も少なくありません。共働するバザーは楽しい合同行事になっています。日曜学校、婦人会活動など信徒の交わりを大切にする楽しいイベントの大好きな教会です。刺繍の会の活動による礼拝用品の数々の製作物、75周年に奉献されたパイプオルガンは毎主日奏でられ、礼拝を豊かなものにしています。80周年に信徒の総意でステンドグラスを捧げ、感謝の心を目にみえる形に表しました。これからも神さまと共にあることを喜び祝いたいと思います。

どうぞ交通の便の良い大宮へおでかけください。歓迎いたします。

【司祭のいる一冊】 もつと教会を 行きやすくする本

八木谷 涼子著
キリスト新聞社2013刊
司祭 卓 志雄

まだまだコロナ禍の只中だが、礼拝休止からは脱し、既に「教会復帰」が始まっている。教会信徒だけではなく、コロナ禍によって心身共に疲れた人々が癒しを求めて教会を訪ねてくる。2013年キリスト新聞社から発行された『もつと教会を



行きやすくする本』を思い出した。多くの人々と共に祈りを献げるために「今」教会が気を付けなければならないところを明確に指摘している。

著者は「本書は、はじめてキリスト教の礼拝に出てみようという方に向けたガイド本ではありません。はじめて教会に行つた『新来者』が教会からどんな印象を受けたか、教会のどんな対応を好ましく思い、あるいはそう思わなかったかを語ってみた本です。」と最初に述べている。私たちにとって教会のドアを開けることはすっかり慣れ

た日常であるかもしれない。あるいは礼拝に戻つてこれたことを喜ぶあまり、以前よりも「これまで」のあり方に固執したりもする。しかし新来者にとっては全て初めてだ。教会にメールを送ること、電話をかけること、教会のドアを開けることは緊張感の極まりであるだろう。まるで別世界に入る初めての一步だから。著者は教会掲示板、アクセス、電話対応、受付の対応、週報、出席者名簿、新来者カード、教会のSNSやHP、ついていきにくい礼拝、つらい礼拝などに関する新来者の体験談と適切なアドバイスを書き記している。

この本を読んで私には、慣れ親しみてきているがゆえに気が付いていない部分が多くあった。教会は今の信徒だけの専有物ではなく、これから入ってくる人々のために、隣り人のために開かれ続ける場所であることを忘れないでいきたい。また教会が「第一印象」によって「二度と行きたくない」ところにならないように願っている。

中高生世代キャンプ

「ここに教会がある」

チャプレン 執事 荻原 充

2020年、2021

年と新型コロナウイルス感染症拡大によって、インターネットを用いたキャンプを皆の知恵を絞って行っていました。2022年はPCR検査等十分な感染対策を講じて、8月18日（木）



とつてもそうですが、中高生世代の参加者にとつての夏、今このときを大切にしたい。ともに噛みしめたい。

そういう思いでキャンプの準備をしてまいりました。わたしはチャプレンとして初めての対面のキャンプでしたが、参加して感じたのは「ここに教会がある」、そういう思いに満たされた4日間でありました。

キャンプでは、それぞれの生活の場での「わたし」から離れ、これまでも出会ったことのない「わたし」と出会うことになります。寝食を共にする仲間が変わることのないようなトピックについて、今ここで感じ

て、今ここで感じることを言葉にして分かち合うと、「あ、こんな自分があるんだ」と気づく機会が訪れます。

この場には、言ったことを否定したり、批判したりせずに、そのまま受けとめてくれる仲間がいます。それぞれの話をじっくり聴くことを通して、一緒に食事をしたり、お風呂に入ることを通して、また何もせずとも一緒にその場にいて、この場に在っていいんだ」という自分の存在が受けとめられている、そういう実感を味わうことのできる場がキャンプにはあります。「これこそ教会である」とわたしは感じましたし、では、わたしたちの教会の現場はそうなのかな、とキャンプから問われるときでもありました。



ナザレ修女会に

感謝を込めて

2022年6月30日、『ナザレ修道会活動終了感謝礼拝』をもって修道院が閉院されました。司式は武藤謙一主教様、補式は矢萩新一司祭様、説教は高橋宏幸主教様で、コロナ禍の中、順霊母様、美代志修女様と11名の主



ました。先輩会友会世話人の方々のお働きにより、毎年5回ほど定期的に会友会が開かれ、修女と会友の関係が保たれてきました。

会友とは、「会友のしおり」に次のように記されています。

『会友とは祈りによって修女らと密接に結ばれている者のことを云います。何処にいても各自その場所において、会友はナザレ修女会にとって欠くことの出来ない存在であり、祈りの生活を修女らと実際に共にするのであります。会友にふさわしい祈りの生活は、ナザレ修女会の精神をよく理解

で、静粛なうちに無事に礼拝が行われました。

ナザレ修女会の発会は、ヒルダ伝道会、英国から来日したエピソード修女会の活動で、今年修女会創立85年を迎えました。私が10代から通う三光教会には、修女が主日の礼拝にお出でになったり、先人の信徒さんがナザレ修女会と深い繋がりがあったりして、自然と修女会が身近に感じられ



することから生まれます。ナザレ修女会は主の御降誕の奥義にささげられています。従って会友は修女と共に霊にてナザレに住み、聖なる家族の御生活に倣うように努めることが大切であります。』とあります。私たち会友は三鷹市牟礼の修道院に集まり、修女様と共に礼拝を捧げ祈ることが大事であり楽しみでした。それが閉院と聞き、これからどうしたらよいのかと悩む時に、ある司祭様から「修女会がなさっていたことを伝承し、語り継ぐことこそ会友の努めであり、これからが会友会の意味がある」と言ってもらい、世話人として出来る限り、牟礼の礼拝堂に集う機会をもうけ、修女会のために祈り、いつも主のみ跡を踏み、霊的生活を全うすることが出来るよう祈り続けたいと思います。

(関東地区会友会世話人

鈴木容子)



宣教協議会ってなんです
か？ その2

2012年宣教協議会
から2023年へ

「歴史への責任と21世紀への展望」と題した95日本聖公会宣教協議会の「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」以降、日本聖公会は韓国・フィリピンをはじめアジアの諸教会との交わりが深まりました。1998年のランベス会議でも紹介され、多くの国の人に感銘を与えました。しかし、より具体的に進むためには課題もありました。

2012年の宣教協議会は9月14日～17日、静岡県浜名湖畔の研修施設「カリアック」を会場に、3つの目的をもって開かれました。①教会の直面する現状を分かち合い、

具体的な宣
教ビジョン
を構築する
こと、②日
本の社会に

おける教会の使命・宣教について再認識し、具体的な方策を検討すること、③世界に対し、1995年の戦責告白を踏まえ、日本聖公会が「平和の器」として用いられるため。

そうした目的のため準備が進められている中、2011年3月に東日本大震災、そして、東京電力福島第一原子力発電所爆発事故が起こったのです。大きな犠牲と被害を目の当たりにして、宣教や教会のことは、もはやこの災害によってもたらされた事態・現実とは無関係に考えることはできないと思い知らされました。

・2012年日本聖公会宣
教協議会

「いのち、尊厳限りないもの」
宣教する共同体の



ありようを求めて」

この宣教協議会には全教区の主教と各教区の代表者達が集まりました。管区諸委員会、大韓聖公会からの代表も迎えて140名が集まりました。

ベリス・メルセス宣教修道女会の清水靖子シスターを講師としてお招きした特別講演は「イエスの道を歩く」未来へのチャレンジ・未来の子どものために原発を止めるためには」でした。福島原発事故の現実、キリスト者としての生き方をどう選択するのかが問われま

した。これは、11年経った今も問われ続けている問題です。また「いっしょに歩こう！プロジェクト」の報告では、現地の人々の悲しみや苦悩の傍に共にたたずむ教会、その只中におられる主イエスの姿が示されました。

それに続き、日本聖公会の宣教を考えるための多様な宣教ビジョンが、西原廉太司祭(当時)の基調講演の中で、資料とともに提供されました。笹森田鶴司祭(当時)によるバイブルシェアリングでは「わたしたちは何者で、何をすべき存在であるのか」、多様さを抱えた被造物Ⅱ人間の使命について分かち合われました。参加者はこれからの教会のビジョンを語り合い、最後に『日本聖公会(宣教・牧会の十年)提言』にまとめられたのです。

閉会聖餐式説教で植松誠首座主教(当時)は「私たちの日常の中に宣教の

現場がある」と語られました。各教会に配られた「2012年日本聖公会宣教協議会報告書」にこれらの詳しい内容が載っています。

それぞれ場で歩んできた私たちの〈宣教・牧会〉を振り返り、新たに向かうため、次の宣教協議会は来年11月に開かれます。

・2023年日本聖公会宣教協議会 2023年11月10日(金) 13日(月)

@山梨県清里、清泉寮

「いのち、尊厳限らないもの」となりびとになるために」

テーマは2012年の宣教協議会「いのち、尊厳限らないもの」を引き継いでいます。2023年の宣教協議会で大切にしたいことは「となりびと」というキーワードです。イエス様は「サマリア人のたとえ」で「あなたの都合ではなく、あなたが出会わされた人のとなりびとになる」

ことを求められました。本協議会では、「あなたは誰のとなりびとになりますか」という問いを深めていきたいと思っています。

また主題聖句として、ヨハネによる福音書15章5節が選ばれました。

『私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである』

(聖書協会共同訳)

「まことのぶどうの木」であるイエス様とつながること、そしてそこから伸びていく様々なぶどうの枝の集まりとなること、宣教協議会をイメージするものです。協議会に関わる一人ひとりが、「ぶどうの木」であるイエス様を通じて「となりびと」になっていくことを願っています。

・「ぶどうの枝協議会」(拡大実行委員会)の開催報告

2023年宣教協議会に向かつては、個々の教会や施設も含めた日本聖公会に連なる皆様との対話や、できるだけ多くの方々と一緒に準備の時を歩むことを大切にしています。「ぶどうの枝協議会」もその一つで



す。今回、宣教協議会プログラムについて協議するたに開かれました。8月22日(月) 23日(火) インマヌエル新生教会(東京教区)を会場に武藤謙一(首座主教、各教区の宣教担当者、管区諸委員会の代表者と実

行委員会が集まりました。開会礼拝には実行委員長の儀晴久主教が説教をし、続く午前のプログラムは西原廉太主教から「ランベス会議報告」、実行委員会から「宣教協議会実行委員会のこれまでの歩み」の二つの発

題で始まりました。午後は原発問題プロジェクト長の長谷川清純司祭よる発題、そして会場となったインマヌエル新生教会の3名の信徒、下泉小波さん、田中盛人さん、照岡好枝さんと、卓志雄司祭から、新しい教会へと生まれ変わるまでの出来事やそれぞれのストーリーを伺いました。その後、グループの分かち合いを、全体の分かち合いを続け、来年の宣教協議会のプログラムについて様々な具体案が出されました。短い日程でしたが、宣教協議会に向けてたくさんの「ぶどうの実」を頂いた有意義な時となりました。

(実行委員 福澤真紀子)

《信徒リレーエッセイ》

神様のみに守られて

葛飾茨十字教会

菅原 公子

中学生の頃、朝のラジオから「日曜日はぜひ近くの教会へ」の声が流れて、イエス様が優しく新鮮に感じ、その時が神さまとの出会い、人生の原点になりました。23歳で洗礼を受け神さまのみに守られて50年近くが経過しました。

8年前、日曜日の勤務がなくなり、意を決して、葛飾茨十字教会の玄関に立ちました。翌年5月6日3人の青年と一緒に堅信を受け、茨十字教会の信徒になりました。8月に堅信時の教母になっていた方とイスラエルの聖地巡礼の旅に参加しました。

現在は葛飾学園の施設ケアハウス・サンピエールに居住し、教会の先生達、教母、諸先輩のお働きに学び、微力ながら教会のご用をさせていただきます。

平和と、戦争のない世界の実現とコロナの収束を心からお祈りいたします。

日本聖公会婦人会総会を終えて

日本聖公会婦人会前会長 井上 恵美子

主に三つあり、その一つが感謝箱献金です。

日本聖公会婦人会第27（定期）総会を6月15日（水）16日（木）の2日間、大阪で開催致しました。今総会では武藤謙一首席主教様をはじめとする6人の主教様方が臨席され、ことに4月23日に北海道教区に着座された笹森田鶴主教様のご臨席くださり、長きにわたり女性の聖職者のために祈り求めてきた私たちにとって、総会でお会いできたことは、とても喜ばしいことでした。

総会決議の中に「感謝箱献金のお献げ先について」があります。全国からお送りいただいた感謝箱献金は、国内外の女性や子どもたち、障がいのある人たちの活動の支援のためにお献げしています。今回決議されたお献げ先は次の7か所で、①「聖地ろうあ子どもの里」②「リグリマ・ジャパン」③「サイディア・フラハ」④地域支援団体「釜石支援センター望」⑤難民・移住労働者問題キリスト教連絡会⑥国際子ども学校ELCC⑦聖公会生野センターです。

日本聖公会婦人会の活動は



したが、国内外に起こっていることに目と心を向け、祈りましょう。小さな額の献金で、誰でも、いつでも、活動の輪に加わることができる感謝箱

献金は、今も変わらず続けられています。

二つ目の活動は被献日献金です。日本聖公会婦人会の創立記念日である被献日には教区婦人会または教会で礼拝を守り・行い・祈り、献金は会員と教会に連なる人、神学生の学びに用いて頂きます。今年も神学生の書籍購入のため10人の申請を承認いたしました。教区婦人会の活動を閉じられた東京教区と九州教区の神学生への支援も勿論含みます。

また私たちは会員同士の交流を大切にしています。2020年から新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が繰り返され、教会での礼拝に行くことが難しくなりました。慣れないオンラインに切り替えて会議を続けていましたが、やっと6月の総会で全国の皆さまとお会いすることが出来、それだけで嬉しく、コロナ禍ですが多くの方々の協力を得て開催出来、感謝のひと言につきます。

ちょっと聖書、ときどきユーモア（五十三）

1. ペトロのような信仰

信徒「先生、ペトロっていうのはどういう意味なんですか」
 牧師「ペトロっていうのは“岩”という意味があるんだよ」
 信徒「じゃあ、日本語になおすとペトロは“お岩さん”ですね」
 牧師「まあ、岩のように堅い信仰をもつ人になるということなんじゃないかな」
 信徒「なるほど、でもかたい信仰ならもっている人はたくさんいますよ」
 牧師「そうかなあ」
 信徒「かたい信仰といっても、頭のかたい信仰ですけどね」

2. サービス

信徒A「礼拝のことを英語でサービスっていうでしょ」
 信徒B「そうだけど、それが・・・」
 信徒A「だから口先だけで神さまを賛美する礼拝を何て言うか知ってる？」
 信徒B「何て言うの」
 信徒A「これがほんとの“リップ・サービス”」

3. 卒業間近の神学校で

学生「先生、もうすぐ卒業です、本当に有り難うございました。でも正直いうとまだ先生とは別れたくない気持ちです。もっと、いろいろと教えてほしいです」
 先生「それはちょうどよかった。君の願いがかなったよ」
 学生「えっ、どういうことですか」
 先生「今日の教授会で君の留年が決まったんだよ」

がり共に活動を続けて頂いています。 <https://www.msn.com/ja-jp/feed/ACWCJ> (アジア教会婦人会議)の一日研修会は3年前まで毎年10月に富士見町教会(日本基督教団)で、昨年はオンラインで行われました。エキメニカルの交わりへの日本聖公会の参加者が多いこと、リストコインの交わりについても総会で報告されました。

総会は3年ごとに行い、大阪教区が担当する役員会の任期の3年目です。この秋からの役員会は横浜教区婦人会が担うこととなりました。お知らせ等はホームページに掲載されますので是非ご覧いただき、関心を持続けて頂きますようお願いいたします。

次回クリスマス号

12月24日発行予定

